

田んぼダムの推進について（令和3年度取組紹介）

秋田県農林水産部農地整備課

近年、県内外において集中豪雨等による災害が頻発化・激甚化していることから、流域治水対策の一つとして「田んぼダム」の取組が注目されています。

本県では、これまで水田の多面的機能維持の活動として、数地域において田んぼダムの取組が行われてきましたが、今後の更なる普及・拡大に向けて、今年度よりモデル地区を設置し、田んぼダムの効果や課題等の検証を開始しました。



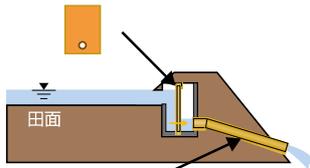
豪雨による畑地や住宅地の被害
(大仙市 上：H29、下：R2)

(1) 実証モデル地区の設置

県内のほ場整備実施中の10地区において、流量調整板等を用いた従来型田んぼダムの実証田を設置し、効果や課題等を検証しています。

また、実証モデル地区のうち、大仙美郷地区において、従来型田んぼダムに加え、自動給排水システムを用いたスマート田んぼダムの実証田を設置し、雨水貯留効果を比較・検証するほか、水稻の生育・収量調査等を行い、営農への影響についても確認しています。

流量調整板φ60



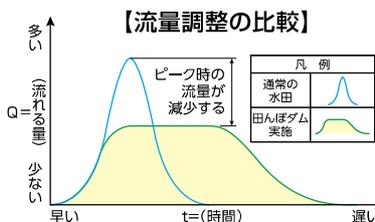
塩ビ管φ150
田んぼダムの仕組み



ポリ製ロート型
(秋田市四ツ小屋北地区)



自動給排水栓
(美郷町大仙美郷地区)



田んぼダムの効果のイメージ



流量調整板：V字カット
(横手市浅舞北部地区)



流量調整板：丸孔
(美郷町大仙美郷地区)

(2) 田んぼダムの普及・拡大に向けた取組

県では、田んぼダム実証モデル地区の関係者が取組状況や効果・課題等について話し合う意見交換会を開催しています。出席者からは、「田んぼダムによる一時貯留の効果を確認できた」との意見や「貯水により畦畔の一部が崩れた」などの課題が挙げられました。

また、実証状況や取組農家の声などを掲載した「田んぼダム通信」を発行しています。

田んぼダムの取組には、農家の合意形成が不可欠であることから、県では引き続き、効果や課題を調査するとともに、河川管理者や市町村、土地改良区等と連携のもと、調査結果や先進事例、支援措置などを紹介し、農家の理解を得ながら、田んぼダムの普及に努めていくこととしています。



【田んぼダム通信】